

世界初の樹脂成形法 「三次元ハイブリット製法」



株式会社カツロン

押出成形と射出成形を 組み合わせる

自動車や電車の扉のバッキン、農業・漁業用散水ホース、または各種ゴムチューブ等、カツロンは合成樹脂を押し出成形することで多様な製品を作り出す、樹脂素材応用製品メーカーだ。創業は昭和24年。当初、押し出成形していたのは「チョコレート」であり、当時の社名は「日之出食品」。

戦後間もない頃、代替甘味料を用いたチョコレート製造を思い付き、現在社長である石川明一さんの祖父が立ち上げた。その後、昭和36年頃から散水用ビニールホースの成形に移り、現在に至る。

押し出成形とは、樹脂材料を押し



成形機に注入し、各材料に適した温度で溶融し、押し出成型を通して成形する製法。チューブやバッキン等、二次元構造のものをエンドレスに成形することができ、これに対し、金型に樹脂を流し込み、一つずつ立体構造物を作っていく製法を射出成形という。

カツロンが生み出した、世界初「三次元ハイブリット製法」は、押し出成形と射出成形を組み合わせる製法。立体構造物をエンドレスに作ることでできる製法であり、ここから生み出された新製品が、主に駐車場等に敷かれる「芝生保護・支持用プレート」だ。

「三次元ハイブリット製法」であれば生産スピードが上がるため製品単価が抑えられ、また、一度に大きな面積の成形が可能のため、現場での施工性も上がるのだ。年間約2万㎡出荷するヒット商品となった。

「樹脂は生き物」

「樹脂は生き物」と語る石川社長。「気温や湿度によって毎日でき上がりが変わる押し出成形は、人の手によるウエイトが大きい」。だからこそ、特に若い技術者には「自分の作った製品が、あらゆる産業の根幹を支えているという自負」を持って臨んでほしいという。

伝統的に多品種・小ロット対応のものづくりを方針とするカツロン。100台以上の押し出成形機を有し、「どんな注文にも対応できる自信がある」と強調する。事実、同社が手がける分野は、建築・土木、自

動車、機械、OA、農林水産業、APレルと多岐にわたる。

「ビジネスチャンスはそこかしこに眠っている。樹脂の勉強はもちろん、全産業分野の動きを敏感に察知していかななくてはならない」というのも頷ける。

作り手さえもどこでどう役に立つか読みきれないほど、大きな可能性を秘めた樹脂製品。今後も、次々と新しい分野で樹脂製品が活躍することを夢見て、カツロンは歩み続ける。

主な事業内容

押し出成形、異形押し出、三次元ハイブリット製法等による合成樹脂製品の製造・販売等



石川明一さん
代表取締役社長

株式会社カツロン

Company Profile

住所 / 〒577-0803
大阪府東大阪市下小阪3-8-6
設立 / 昭和24年6月
資本金 / 4,550万円
従業員 / 100名 (平成21年1月現在)
TEL / 06-6721-7115
FAX / 06-6725-8679

ISO 9001



<http://www.katsulon.co.jp/>